

青山学院中部 よくある質問集

(中部 HP にも「よくあるご質問」がありますのでご確認ください。)

		Q	A
入試入学	Q1	入試でどんな生徒を求めていますか。	小学校での基礎力を十分に身につけ、入学後も更に伸びていこうとする生徒を求めています。青山学院中部で学びたいという意志を強くもった生徒に、ぜひ来ていただきたいです。
	Q2	入試問題の傾向についての最新情報を教えてください。	9 月中旬に本年度入試の傾向などを公開予定です。
	Q3	入試において外国滞在や英語検定、漢字検定などによる優遇措置はありますか。	ありません。小学校での学習内容を満遍なく身に着けてきてください。
	Q4	入学時までに習得していることが望ましい検定などがありましたら教えてください。	特にありません。基礎学習を徹底させつつ、各々興味のある分野を深めていってください。
	Q5	小学校の出欠記録を提出する必要がありますか。	必要ありません。
学習	Q6	ICT 教育への取り組みを教えてください。	2019 年にすべて完成した新校舎には ICT 環境が整えられており、現在 1 人 1 台のタブレット PC を各教科で積極的に使用し、学習の幅を更に広げています。全ての教室に ICT 機器・Wi-fi 設備を備えており、PC 等を使っの調べ学習や発表、コロナ禍においてもオンラインシステムを使い、家庭での学習資料の閲覧やレポートの提出なども行ってきました。
	Q7	初等部では 6 年間英語学習をしているようですが、ついていけますか？	中学校の英語学習からは、コミュニケーションと共に文法理解や単語の定着など、体系的な学習が求められます。初等部生の発音や発想力、瞬発力などからよい影響を受けつつ、受験勉強で培った勉強する力を発揮できれば、受験で入学した生徒も試験、発表などの活動とも、よい成果を見せています。
	Q8	英語教育に強いイメージがありますが、一方理数系教育に関しては特色などありますか。	本校は 10 教科すべてを大切にしています。数学では上級学年で習熟度別クラスを実施していたり、理科では実験や観察の機会を多くもったりと学習を深める工夫をしているほか、選択授業ではより踏み込んだ内容を学ぶことができます。
	Q9	学習についていけない場合の対応はありますか。	毎日放課後にスタディールームという自習環境が設けられています。そこでは大学生などが学習を支援してくれており、わからないところを質問したり、宿題の手伝いをしてくれる環境になっています。その他にも、教科センター方式のため授業の教室に教員がいる時間が長く、授業の前後に質問しやすい環境になっているため、そこで自ら質問をしたり、教員から声をかけたりして、必要に応じて個別の対応をしています。
	Q10	入学後、塾などに通っている生徒は多いでしょうか。	約半数が塾や家庭教師を利用しているようです。学校では授業を大切にしよう指導しており、基本的には授業で理解できる内容と進度になっています。また、放課後にはスタディールームが開かれており、疑問点の解消に役立てている生徒が多いです。塾等は補助的に活用している生徒もいれば、発展的なものに挑戦している生徒もいるようです。
	Q11	子供たちで自主的にテーマを決め調査を行うなどの参加型学習の場面もありますか。	各教科の取り組みに、そのような場面があります。一例を挙げると、班ごとに国を選んで調査し、旅行プランをたててプレゼンする地理の授業や、好きな生き物について調べて発表する理科の授業などを行ったことがあります。

	Q12	3年生の選択授業について詳しく教えてください。	週に 2 コマ、生徒が自分の興味関心に応じて受ける授業です。年度ごとに各教科の教員が様々な講座を用意しています。開かれている講座の一例は次の通りです。 国語 「ジブリ」「美文字」 数学 「ハイレベル数学演習」「暗号入門」 外国語 英語：「歌」「翻訳」「資格試験対策」「Free Reading」「Debate」 「中国語」「韓国のことばと文化」 社会 「現代社会」「地理学」 理科 「実験・科学コミュニケーション」 美術「名画の模写」 体育 「ラクロス」 家庭「和食」 技術 「AI・プログラミング入門」 ※英語には、他に指名制の補習講座があります。
	Q13	日々の宿題の量は、多い方でしょうか？	生徒の感覚的なコメントとしては「多い」という声も聞きますが、中学生としては平均的な量だと思います。演習問題等だけでなくレポート形式での課題もあるため、計画的な取り組みが必要になります。生徒の家庭での学習平均時間はさほど長くないため、無理のない量だと考えます。
	Q14	入学後、定期テストの評価の仕方について教えてください。（順位を出す出さない、何段階評価など）	中等部では「競争より協力」を大切にしているため、順位を出すことはしません。成績は、相対評価ではなく絶対評価の 10 段階で出されます。また、「主要教科」など差をつけず、10 教科すべてを大切に捉えています。
進級進学	Q15	内部進学できない子はどのくらいいますか。 成績だけが原因か、生活態度が主に問題になるのでしょうか。	例年 95%程度が高等部に進学し、残りの約 5%には希望しての外部受験や留学も含まれています。高等部への進学は中等部からの推薦のため、成績以外でも推薦に値しない行動があった場合には進学できないこともあります。常識的な学校生活を送っていれば問題はありませるのでご安心ください。
	Q16	留年の制度はありますか。	中等部には留年制度はありません。高等部へ進学した場合には成績によって留年制度があります。

	Q17	留学の制度はありますか。	海外交流プログラムとしては、毎年のおーストラリア・ホームステイ、イギリス語学研修プログラム、隔年での韓国とフィリピンへの訪問を行っており、新たに中国との交流も始まっていますが、中等部では留学の制度は設けていません。
学校生活一般	Q18	初等部出身の生徒とはどのくらいで馴染めるでしょうか。	生徒の個性によるので一概には言えませんが、オリエンテーションや宿泊行事、日々の授業やクラブ活動などを通して共通の体験が増えていく中で、出身小学校の別なく「中等部生」となっていっています。
	Q19	昼食はどのようにしていただくのでしょうか？	基本的には家庭からのお弁当を持参し教室でいただきます。ご家庭の事情でお弁当が作れない場合には、外部の業者へ予めメールで注文をし学校へ届けてもらうシステムもあります。カフェテリアも施設としてはありますが、90 名ほどこしか収容できないため、その場所は放課後に軽食などを販売しています（現在は販売停止中）
	Q20	生徒の仲は良いですか。学校の雰囲気はどうですか。	個人差はありますが、笑顔が多く、笑い声がよく聞こえてくる学校です。様々な生徒はいますが、キリスト教の教えを大切にしていますので、互いを認め合っています。それぞれのもつ個性に合わせて自然と役割分担し、困っている人がいるときには助け合うことができます。
	Q21	自律した生活習慣が身に付くようなサポートはあるのでしょうか。なかなか難しいので心配です。	従来の教室で教員を待つ体制ではなく教科センター方式のため、一日の流れを自分で理解し、行動に移すことが必要とされます。そのため、メモ帳を持ち運び、必要な情報を自分で把握するよう指導しています。また、共有スペースが多い中で他の生徒の工夫を見て学ぶこともできます。中学生ですので初めから完璧にできる生徒ばかりではありませんが、失敗を繰り返す中で自分なりの方法を見つけてくれるようになります。
	Q22	クラス替えの頻度についてお聞かせください。	毎年度、学年が変わるごとにクラス替えがあります。

	Q23	毎日どのくらいの時間まで学校に滞在しているのですか。	授業・HR が終わる時刻は 月・火・水・金 15:10、木 15:40 です。 その後に該当生徒は清掃活動やクラブ活動を行います。 時期によって異なる最終下校時刻までの時間、各自自由に過ごし、自由に下校していきます。 詳しくは 「こちら」 をご覧ください。
	Q24	カウンセラーは常時いらっしゃいますか。	生徒が登校する日は常時滞在し、電話やメールでの相談も受け付けています。保護者の方からの相談も可能です。
	Q25	在学中、芸能活動は可能でしょうか。	活動は可能ですが、生活や学業への特別な対応はありません。
	Q26	休み時間はどのように過ごすのでしょうか。 屋外で遊んだり出来るのでしょうか教えてください。	朝の HR 前や昼休みには、各自思い思いに過ごしています。運動する場合、屋外ではグラウンドとテニスコートを使用できます。高等部と共有している人工芝グラウンドはエリア分けをして中学生も遠慮なく遊べるようにしています。屋内はアリーナとサブアリーナです。ホームルーム、ホームベースのほか、学年ラウンジやメディアセンター(図書室)で過ごす生徒もいます。放課後にはクラブのない生徒がカフェテリアで談笑している姿をよく見ます。
	Q27	校舎が新しくなり、授業ごとに教室移動と伺っていましたが、生徒への影響（良い面、悪い面）や生徒の変化について伺いたいです。	時間や道具の管理、授業に自ら向かう姿勢が育てられており、生徒の工夫を引き出すことができています。移動しながらも各教科の様々な教材・教具から刺激を受け、そして他学年と出会う機会も多いため、全校生徒と常にコミュニケーションが取れるようになりました。移動は多いですが、口の字型の校舎で移動しやすくなっています。階段移動も多いですが、従来の校舎でも音楽や理科などでは特別教室へ移動することを考えると、負担が大きすぎるということはないと思います。
	Q28	プロテスタントの考えが反映された行事はありますか。	すべての学校行事や活動が建学の精神を礎としています。 日々の礼拝や聖書の授業のほか、特別礼拝としてイースター礼拝、母の日家族への感謝の日礼拝、クリスマス礼拝が全校で参加する、毎年の大きな行事です。各学期が始まる前には CF(クリスチャン・フェローシップ)活動があり、希望者が奉仕活動を行っています。隔年で講師をお招きしての宗教講演会も開かれます。また、夏休みには希望者での緑蔭キャンプがあり、キリスト教への理解を深めます。学校の活動自体がキリスト教を礎としていますので、人を思いやる気持ちを持つ生徒が多く育っています。クリスマスツリーの点火祭は、幼稚園から大学まで学院全体での行事です。
	Q29	高等部と一緒に活動や交流など連携はあるのかお聞きしたいです。	一部のクラブは高等部生と合同での練習をしたり、公演をしたりと交流していますが、ほとんどは基本的には別活動です。
	Q30	大学と連携しての活動にはどのようなものがあるのでしょうか	スタディールームでは、青山学院大学の教員志望の学生が学習のサポートを行い、チャットルームでは青山学院大学と提携した海外からの留学生とコミュニケーションをとることができます。またクラブのコーチとして青山学院大学の学生が来てくれています。高等部へ進学後は、高大連携のプログラムがあり、大学の授業を履修することもできます。
	Q31	一貫校のメリットは、どんなところとお考えでしょうか。	受験勉強にこだわらず、自分の将来に向けてじっくりと学問に触れてもらうことができる点が大きいと考えています。学問以外にも自分の興味のある分野に打ち込むこともできます。決められたものを学ぶのではなく、学びを自分で探してゆく機会が増えると言えるでしょう。中等部が「本物を存分に」という思いを大切にできるのも一貫校ならではのでしょう。
	Q32	平均通学時間はどのくらいですか。	徒歩通学の生徒から、1 時間半程度かけて通学する生徒まで様々ですが、平均は1 時間ほどです。1 年の最初は通学が大変かもしれませんが、2 ヶ月もすれば体もすっかりしてきますので、慣れてきます。
	Q33	自転車通学は可能ですか。	自転車での通学は中等部だけでなく、青山学院全体で許可されていません。
	Q34	先生と生徒の関わりはどのような雰囲気ですか。	互いに尊重しながら親しく接し、相談もしやすい環境だと思います。もちろん多少の個人差はありますが、生徒教員間の垣根は低く、遠慮しすぎずに関わることができているように思います。
	Q35	忘れ物をした場合の対応方法について教えてください。	忘れ物は保護者の方が届けに来られることが時々ありますが、日常生活においては致命的な忘れ物はほとんどないため、万一忘れ物をしてしまった場合には自分でどのように対処すべきかを考えることも教育の一環と捉え、その都度対応しています。
	Q36	海外赴任した場合の対応を教えてください。	ご家族での海外赴任から日本へ戻られる時に復学試験を行います。本校へ戻り遜色なく学習できることを確認するための試験です。なお、復学の時期については高等部への推薦が関わることもありますので詳細は入学後にご相談ください。

	Q37	いじめに対してどんな対策をしていますか。	学校としていじめには厳しく対処する旨を、折に触れ、生徒たちに伝えています。現実的には、なるべく早期に発見するべく、教員一同生徒たちの様子に気を配っているほか、カウンセラーも常駐し当事者の生徒、周囲の生徒や保護者の方からも常に相談してもらえる環境づくりを心がけています。 担任以外にも教科担当者、クラブ・同好会顧問、保健室の養護教諭、学校カウンセラーなど、多方面から支援できる体制を整えています。
	Q38	学校滞在中に大きな地震があった場合の対応について教えてください。	緊急メールとニッポン放送(ラジオ)で本校の状況と対応が保護者へ伝わるようになっています。また、毎年避難訓練と帰宅訓練を実施しており、学校滞在中、登下校途中の緊急時にも対応できるよう備えています。詳しくはこちらをご覧ください。
クラブ同好会	Q39	クラブ全般について教えてください。	およそ35 のクラブ・同好会があり、兼部も可能です。全クラブ活動は週に 2 日、放課後のみ行います。活動時間は夏場で 2 時間半程度、冬場だと 1 時間半程度です。試合前等には土曜日に練習をするクラブもあります。夏休みには強化練習の他、5 日間前後の合宿を行うクラブが多くあります。 どのクラブも入部に選抜などはありません。各クラブ初心者が多数入部しています。 個別のクラブについては「 こちら 」をご覧ください。
	Q40	部活の加入率、兼部している生徒の割合を教えてください。	全校生徒の 95%がクラブ・同好会に加入しています。 また、そのうち2割の生徒が複数のクラブ・同好会に参加しています。
	Q41	学業の成績が悪い場合、部活動に参加できないことはありますか？	場合によっては、放課後に勉強の時間をとることでクラブの時間がなくなったり、保護者や担任と相談した結果、しばらく休部するという措置をとったりすることはありますが、強制的に参加を禁止することは基本的にありません。
	Q42	部活と勉強の両立は可能でしょうか。	個人差が大きいため一概には言えませんが、多くの生徒がこれまで両立させてきています。
	Q43	高校からスポーツ推薦の生徒が入学してくることはありますか？	高等部へのスポーツ推薦はありません。
	Q44	他の中学には無い特徴のある部活動があれば、ご教示頂けると幸いです。	クラブ・同好会の数は他校に比べ多く、中等部独自のものとしては「ラクロス部」や「ハンドベル部」、「オルガン同好会」、キリスト教のボランティア同好会の「緑信会」、「囲碁将棋同好会」、「スキー同好会」など多方面にわたります。
	Q45	小学生のうちに部活体験はできますか？	申し訳ありませんが、体験入部は行っていません。動画をご覧いただき、雰囲気を感じていただければ幸いです。
	Q46	運動部の活動はどこで行うか教えていただきたいです。	運動部が活動できる主な場所はグラウンド、ハンドボールコート、アリーナ、サブアリーナ、プレイルーム、テニスコート、プール、初等部のグラウンドです。脚力強化のため長距離走ることのできるコースもあります。
	Q47	人気のある部活動は希望を出しても入れないことはあるのですか。	人数を問わず希望するクラブに入部することができます。
	Q48	文化部と運動部は、1 つずつ入るのでしょうか？教えていただきたいです。	特に決まりはありません。生徒の負担やバランスを考慮し、クラブは(運動部文化部問わず) 2 つまで兼部可能、同好会は制限なしとなっています。中には運動部 2 つや文化部 2 つの兼部をしている生徒もいます。
	Q49	朝練や定期テスト前のクラブの練習など学校としての決まり事があればお教えいただきたいと思います。	朝練は短時間ですが行うクラブは若干あります。期末テスト前はクラブ活動自体が禁止です。通学時間の差異や学習時間の確保を考慮しての対応です。